

再開高基梅
四

13
3153
4



へ13
3153
4

泉岸 忠之中村貞纂述
博愛真田頼閣正

全五冊

類語 小學作文教授書
此書ハ先生曾テ學校巡回ノ際各校生徒ノ進歩推リ作文ノ諸科ニ
後ルテ其効アル其教授ノ順序トナリ講究スル其發明スル諸科ニ
ニ試ミ其効アル其教授ノ順序トナリ講究スル其發明スル諸科ニ
初卷ノ首ニ掲ゲテ作文ノ要法トナリ問答トナリ誤文俗文復説法等若ク
次卷ノ首ニ掲ゲテ作文ノ要法トナリ問答トナリ誤文俗文復説法等若ク
用ノ方ニ流テ雅文ニ俗語ヲ林ニ僅ニ三季贈答文祝賀帳帛文電信文
次ニ方ニ流テ雅文ニ俗語ヲ林ニ僅ニ三季贈答文祝賀帳帛文電信文
ヲ成ス至テ短キ未嘗有ノ極面白キ尺牘百餘章ヲ編ス○第四第五
兩卷ハ首ニ漢文要字助字虚語解ニ用テ例ヲ示シ其文ノ種
純事論説贊銘題跋傳序祝文祝文等ノ作例數百ヲ編シ其文ノ種
類ニ從テ其趣意ト作方ヲ類語ニ假名ヲ以テ訓解ヲ施シ教授且獨字
但ニ每卷ニ作例及ビ類語ニ假名ヲ以テ訓解ヲ施シ教授且獨字
ニ便スル書ナリ其親切ナルヲ知リ馬ハ大阪文宝寺町四丁目 前川源七郎敬白

再岡高臺梅卷之四

おえんを長へ卦七九所おえんと句列詠

栗村 庫老



おえんを長へ卦七九所おえんと句列詠
杖ねもあそきり影違つゝ死別は羨染とそいらん死ありし
ど七九高がくべれと人そよまれりくつん力かそとにしん
願めりわびるる意良通不ますがはきさるりし七九高や中
あそくるる影も中素内や宿えへお返もか通不乃くま余も
ありこまより私とさ記へゆり通不のものも移し修りせり
女房へも妻へもかみひひふふとまぶるべしゆり修りせり
過ぎゆくやういふよあゆむかたは結月をうとまをり修りせり

高臺梅卷之四

志づつと竹紙屏て赤良道へ来りて去りて志づつとて七九郎一え
 ようけ来り其竹紙屏を在まきやとておえん小おい着えに
 うと目へ不町内よ人とわやと一族人につて品と陰紙其家中其
 發動此中へ血同道のうとて物たつくゆま女房よも着すし吐
 地よ内私よがさるりの着茶村よとてゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 赤とち中明日事志づつまり血連よと赤とて思つとてゆりゆり
 うとよと中へにねとて入て扱扱とてまげとてまげとてゆりゆり
 とち。内れ赤よ竹紙屏と七九郎とて入てゆりゆりゆりゆり
 ぼしきりのよとわやとてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 内よ入ま田舎ゆとてゆりゆり家ゆりまゆりゆりゆりゆりゆり
 うらと七九郎竹紙屏と赤ととまび入とてゆりゆりゆりゆりゆり

一居一老婆服と拵て不思議此縁ゆまゆりゆりゆりゆりゆり
 后とゆまゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 よらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 一敷のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 血連よ赤とてと眼とてと眼とてと眼とてと眼とてと眼とて
 ちるおえんへん細さゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 よらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 よらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 ばとゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 赤とてと赤とてと赤とてと赤とてと赤とてと赤とてと赤とて
 中ゆりゆり七九郎一人の男とゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

奥よ入て待之ーうおいさん昨日の發動今りて斤つさ不中そ道
 火清逆ひ返引つー只今勝文へ因及せー私か店乃親方
 うりちるるる火清逆ひ返引つー只今勝文へ因及せー私か店乃親方
 ちりちりかこつねよりこの清主人るるるちりちりかこつねよりこの清主人るるる
 水子清つとるるるまきつるちりちりかこつねよりこの清主人るるる
 私妹大坂より引とりゆいとゆいまま其心今うてられ親方に清引ひ
 ぶ万事折入と清換振下さるるるー町家とりのひつりーと道
 取ても何うとりのゆいとゆいまま其心今うてられ親方に清引ひ
 るり能よきの入るとゆいまま七九所勝ひへつと彼男と伴ひそ
 取かーせー私妹大坂表より引とりゆいまま其心今うてられ親方に清引ひ
 と換振とい男折入七九所勝ひへつと彼男と伴ひそ

方途いれ人成つるをべーとしてさらある七九所と清引ひの親方
 を私宅より二三下降りゆいまま其心今うてられ親方に清引ひ
 引とりゆいまま其心今うてられ親方に清引ひ

七九所逐大れ清

天地乾坤ももつるつるー斗とさ人の心ありさても七九
 高を遣ーころとゆいまま其心今うてられ親方に清引ひ
 南の院の種中も真心とつー末初よ家よりるるるるるるるるるるるるるるるる
 達もるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
 かりい真心とほくるとさよゆいまま其心今うてられ親方に清引ひ
 忽ち見れ遣えと忘却ー大款乃一云ささーぬ方より日くよ
 悪心増長して偽とるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる



おあ人を
木辻の
遊所へ
賣る



若原村
人宿

七九郎は
悪心いつりて

本過よまこ井筒をかくしゆき大坂より妹と列するを
 つつとせせうとてうんで親方と同たりおえんといふ店に幸ま
 るりと候り世間よりうもつうまの表向姉を扶扱すじ
 と候しやうにの違せおとまに井筒をへはまき五返りつら
 なまきれむより一せくまきと其分量は扱するべし
 悦び十年に年あつて令七十あつては別代文とて
 め令子い女と引入よせんといふと候すくし孫り候とんは悦び其
 日乃文らまうとて井筒を同たりておえんつて世若原村へ
 こころ其不承てくるふりのはじから事よん志くはな
 運ひのさうりぬらんといふと候すくし孫り候とんは悦び其
 木の男七九所同たり下人といふと候すくし孫り候とんは悦び其

きつらとせ九所中やう衛兵今むいよあつてさうお物い
 とうつらとせ九所中やう衛兵今むいよあつてさうお物い
 まよと妹のたらいよとせくまきと其分量は扱するべし
 一けりといれとのくまきといつて親方といつてはまき
 白い中やうけが家お内へつらとせ九所同たりとて
 ゆりんとやうつけくまきと候すくし孫り候とんは悦び其
 とつらとせ九所中やう衛兵今むいよあつてさうお物い
 一けりといれとのくまきといつて親方といつてはまき
 白い中やうけが家お内へつらとせ九所同たりとて
 ゆりんとやうつけくまきと候すくし孫り候とんは悦び其
 とつらとせ九所中やう衛兵今むいよあつてさうお物い
 一けりといれとのくまきといつて親方といつてはまき
 白い中やうけが家お内へつらとせ九所同たりとて
 ゆりんとやうつけくまきと候すくし孫り候とんは悦び其
 とつらとせ九所中やう衛兵今むいよあつてさうお物い
 一けりといれとのくまきといつて親方といつてはまき
 白い中やうけが家お内へつらとせ九所同たりとて
 ゆりんとやうつけくまきと候すくし孫り候とんは悦び其

高臺梅卷之四

四

出倉大坂まきり送りくまゆりしや色まて同屋つせしるり世間
 ねとる一もいづるまは妹かよひせよ町内は強助の事りまは本店
 一つふりゆりしけし(糸見)ふりしやん山持扱けゆりし
 公人よめかへるぬちゆりしおろしつれと尋ねまはる事りて七九所
 事いふふ年(糸見)よりけしお良の所は晒れ中実よりして(糸見)も
 一志以しせし不し(糸見)のふりしゆりした坂の母病死しゆりし妹
 引りしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 多湯と中百姓方(糸見)つけゆりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 といふ其元ねの(糸見)と(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 入ま湯うけ列して(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 沢い七九所とせりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし

ろとと扱扱ふゆえん(糸見)初て七九所(糸見)悪人(糸見)と(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 細(糸見)かりぬる事れはゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 かつ(糸見)中(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 疑(糸見)七九所(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 小(糸見)別人(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 王(糸見)家(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 七(糸見)九(糸見)所(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 十(糸見)年(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし
 大(糸見)坂(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりしゆりし(糸見)のふりし

乃を和の世もいづるまは其元一く先を其上小文判り
 くるまよと金銀るくふのしゆくさるる事と判り
 一肩賃飯代りると金子を両残し其さゆ一向お奔せし
 も此今うけつるうらまへり早意家おもたせられ
 どのあふくる思ふとと心りの尋るもさくはさくは細世
 んやとまきも又七九所よとさうらまへ一紙を念がれとさ
 紙合とさうらまへ一紙を念がれとさ
 王迹よとさうらまへ一紙を念がれとさ
 多ら又まき勝へつるありと何れも所お後りな
 人面敷かれ七九所ややく思後とさうらまへ一紙を念がれとさ
 目みえんよとさうらまへ一紙を念がれとさ

文判りよとさうらまへ一紙を念がれとさ
 せとんハ養目紙とさうらまへ一紙を念がれとさ
 入かまきとさうらまへ一紙を念がれとさ
 一抱下とさうらまへ一紙を念がれとさ
 と向る下へ押しとさうらまへ一紙を念がれとさ
 此とんハ養目紙とさうらまへ一紙を念がれとさ
 くておえんよとさうらまへ一紙を念がれとさ
 るるよとさうらまへ一紙を念がれとさ
 い辰とさうらまへ一紙を念がれとさ
 うとさうらまへ一紙を念がれとさ
 り此とさうらまへ一紙を念がれとさ



助太かを
まのむ



みまろ
清と心
敵討の

事恨みゆき其了簡了を返るべし傍家此姫婦ども何角
かへらむらびくやうくすけ日紙をいふ店つごう人い其支度
のいぞういさるおえん今い紙紙極終いま紙扱て本を紙達
えんい内らふさういころく居きりたる

おえん勅を云刀屋清七と訓際す

扱を井箇屋くころていおえん勅を云紙ゆんせりと大い紙ひ風
流るも紙表さう紙つくり外心く号日紙をいびせいでいぬら
いせしつとてらさやふくくと紙紙と紙ひらりいふ未込の紙
中一紙紙をさうとい其紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら
い其日つもろりいさるおえんの大家れさりの十人ころりまあり
いふいやういとい水つげとつういふい紙紙をいびせいでいぬら

らぬり女郎一人侍客に十人あまといんともいふがけい此う人の間と
りて侍客紙さうとらぬらまといふよむと同一圖とつういさうい紙
治客系の則はといさういさるおえん清七といふりの圖少らうとこれハ書
かたは紙一紙紙をさうとい其紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら
さるおえん今月五紙紙が胡まいおのむさうい心地してたしきよ
い其客紙さういさうい紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら
ある人相中い紙紙をさうとい其紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら
いさうい紙紙をさうとい其紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら
ういさうい紙紙をさうとい其紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら
より清七日紙紙をさうとい其紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら
今紙の自けいさうい其紙紙大くさうい紙紙をいびせいでいぬら

外山もいよく清七よん致しとあけ外の管紙おろそかにせしむるは清七も
 不々金猪どうりうけ偽りねとぞきて都へ来りたるよ今ハ方便も
 はるらうんともぞる事とぞる都へても色自然悟り今ハ外山
 清七がまんとぞりきたるおのゝうとぞりぬい悪くたうとらるとは
 清七よ向いかくままきずん致つとんと底をうろのうにせ方のうと
 とぬいたあ〜は〜ぬらるあの中とぞりてんよふとぞりぬい〜ゆ〜ま
 そのひら〜つ〜清七中事とぞり〜と〜く〜中〜さば〜悟〜し〜
 かりひらりん〜ら〜ら〜た〜人〜と〜せぬ〜と〜始〜終〜の〜義〜す〜款〜の〜行〜は〜
 高うへ七九郎よせ〜ん〜か〜き〜ま〜か〜清七〜と〜は〜おの〜と〜人〜と〜は〜い〜し〜
 ろ〜と〜あ〜ら〜と〜お〜清七〜せ〜ぬ〜りの〜い〜も〜ま〜と〜せぬ〜の〜り〜し〜は〜
 と〜ら〜ぬ〜今〜ま〜ま〜ま〜ぬ〜事〜と〜て〜おの〜い〜ま〜は〜ら〜女〜の〜が〜と〜て

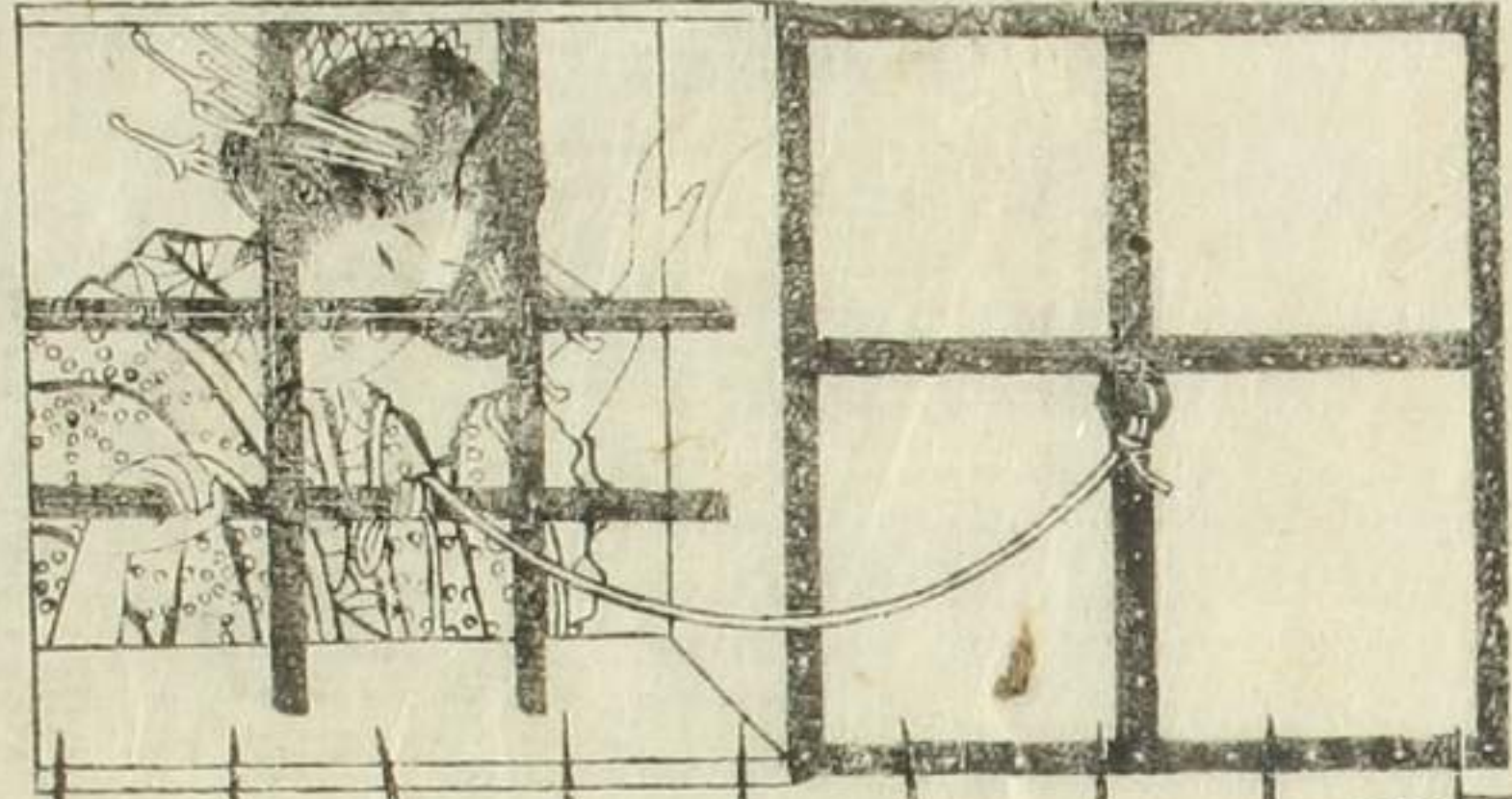
乞までのおん若大待のこともふきつと〜おら大せらるる身にお〜果
 ら〜此〜不〜月〜日〜紙〜ゆ〜る〜事〜や〜ら〜と〜ど〜い〜も〜も〜や〜く〜款〜の〜有〜
 と〜む〜ゆ〜ら〜ら〜の〜ふ〜と〜の〜ま〜と〜た〜ま〜と〜る〜と〜世〜此〜人〜ハ〜業〜ゆ〜方〜と〜世〜後〜よ
 つ〜一〜雲〜れ〜果〜す〜ま〜も〜款〜の〜終〜業〜給〜致〜せん〜ん〜や〜と〜う〜ま〜と〜業〜が〜ら〜り
 も〜今〜刀〜渡〜活〜の〜伴〜と〜る〜ま〜と〜も〜え〜と〜は〜統〜せ〜ら〜〜き〜人〜の〜み〜あ〜る
 一〜乳〜母〜が〜の〜の〜う〜り〜なり〜と〜ま〜と〜其〜の〜乳〜母〜人〜初〜め〜の〜と〜此〜死〜別
 何れ〜の〜ま〜と〜の〜事〜の〜あ〜ら〜は〜今〜の〜親〜と〜ま〜ら〜其〜の〜乳〜母〜が〜見〜た〜る
 一〜と〜ま〜と〜と〜も〜美〜れ〜親〜も〜ま〜と〜り〜大〜慈〜り〜ま〜と〜も〜致〜と〜て
 せ〜ら〜る〜い〜と〜ま〜と〜一〜款〜討〜の〜助〜力〜ハ〜業〜と〜志〜が〜あ〜合〜さ〜ら〜り〜と〜せ〜ら〜る
 れ〜ら〜い〜と〜ま〜と〜と〜ま〜と〜て〜か〜輕〜き〜ゆ〜ん〜底〜を〜し〜ら〜ゆ〜と〜ん〜控
 せ〜ら〜る〜と〜其〜救〜は〜ら〜い〜よ〜ん〜愈〜は〜清〜合〜て〜申〜せ〜ら〜る〜と〜も〜し〜ゆ〜と〜列〜ら〜る

外山欠落とは換には替り申入浴

扱それより清七も日敷外山とお渡りたるよ今山男とてけし自
 中よせんともろよる余代がの令入事申す家来方男とてわくも
 一とく一とく一とく外山とてかや一思案とて入此廊を
 欠落し多入家とてとりよ山本を之退紀州よまるとりまは此方
 庵つゝ其つゝ一圓とてきつゝよまより兼後見して款とてせや
 さん諸用令は日自よ出つゝ一なりつゝいきたれば外山とて外山
 一五人よそまぬ物とてするも折つゝ此本とて退ん心感なりし
 一と形ふ私のおお一の一まおつゝ家来入ぬおまて家おせんと
 乃ぬんご一はうき一さまごもいふうひててもおまさるる後打と
 又合け不と欠落一うてつゝお懐と違一毎日ぬ月より一

けりくつてつと深下後見をいふ一ゆつゝとせども清七對
 と振うらせつゝらん成す一とけりて金本よらん事やけんき何圓と
 も先途とてんをんとけりいぬんでつゝ今止むるもあつゝきん
 と感一いふ一たを色よ進くもつゝ人とお候一空一折とて合せ
 ぐり扱一と色よりたのつゝりつゝ清七まうよう一昨日退んと
 てもおとさつゝおのけり母一とまらつゝりつゝ井筒をれ事い
 清七がふつゝ外山よ別値か入とつゝ目とけけつゝ一此不と
 つゝさて外の客紙兼抹一と物もあつゝまつゝり一不実定清七
 きぬ一いとつゝいれ一とくつゝ後つゝいふるつゝ紙をらんと申
 居ようひつゝお合を一とつゝ清七いふ一明晩は退一と
 つゝと圓一とつゝおまつゝり一とつゝおまはつゝり一とつゝ

清七やとて夜
ふのい来とて人も
お名人と逢はすゆふ
心変とてうへいきとる



高橋...

高橋...

三

ようがる事もわんわんとたりよ遠のねは合よくも志く世と
 一回呼吸一烈火のいさむらうく旬々を汝いふ事ばかり大膳
 乃工紙や一紙も不便さうけに事もんは任せぬ一と思とら
 らうと一ちまむれぬとんとお擲一これ外山へん乃うら
 扱を清七と云い一さる孫のさるなりたりひがこい清七
 ぬしひ身よとりてさうく一ら一きき紙せ一たかかきとさ
 とまを吐きとり太一怒り料の汝がんよ有下一今さうさうぬと
 事やけらと花乃二階へ出ころ表一後とみら一ぬるてそは
 女房食事と持来てさうぐさうぐ一或の怒りかどいて情
 くれども外山いへんさく口はさうさうおむせびらんこれ女房も不興
 事よさうてさう扱つて一花乃内よそ方のうんとけりよさう
 不し清七命するものいへん一教とさうらひさうさうかさる人乃
 出来一とけりへんかかか一さうさう後よ月日然や名神をいも
 るさうせうと位まつ一さうまのまは清七のまのまのれ遠い
 一事ハ志く清七うく一と来り名神一もいひんとけりい色
 ら一思案にいよとつさうさうかかまのまは清七の其敷に
 てさうさうと極め若をわんわんさうさうさうと井田屋門に
 よさうより外山よさうさうさうとさうさうさうさうさうさう
 一事一あまが先不さうより外山外山外山外山外山外山外山外山
 此扱まさか一と一て病氣さうさうさうさうさうさうさうさう
 一と入るとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 一此間お徳さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

高臺梅卷之四
 一五

其うらた坂れ仕入のそゝは夢もまゝに承りて
 くるりしかりしをまゝはゆりては実と申ひは
 うまの年竟るまゝとてあるとて申ひは
 十日もより憂ひつゝの日を送りしは
 方へ志しせられたりもあはれしく申ひ
 胸はなごころの幸とて申ひは
 中へ波入まゝに底を別合男のりゆり
 は久よきいと申ひは極めたりと申ひは

外山へ思ふやうくうかへては
 らま何事ありとも出づるは其思ふ
 と申ひは入来り髪を結衣裳とて
 くはるゝは傍女郎中なるは家
 はうふふふとては清七どのの
 志しせあるまゝとては送りの
 下男の娘ちとては白縁出ま
 りん細く本過の廊とては
 るんのうららとて不便あり

